

令和元年度 府立久美浜高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針 (中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点 (短期経営目標)
<p>本校の歴史と伝統を踏まえ、校訓「意欲、克己、創造」の精神を培い、社会に貢献できる人材の育成を目標とする。</p> <p>1 総合学科の特色を生かし、社会で求められる力を育成する。</p> <p>2 地域の将来を担う若者力を育成する。</p>	<p>1 成果</p> <p>(1) 久美高研究発表会「寄せN.A.B.E.」を開催して、総合学科としての本校の特徴的な取組を発表し、成果と課題について、校内だけでなく外部の教育関係者とも共有することができた。</p> <p>(2) 「森林・林業交流研究発表会」、「京都フロンティア校研究成果発表会」など、地域貢献・地域創生に関わる取組を校外で発表する機会が増え、課題解決型学習や表現力を育成する取組を推進することができた。</p> <p>(3) 「地域で学ぶ」こと、「地域を学ぶ」ことをとおして、キャリア教育の充実と社会で求められる力の育成を図ることができた。</p> <p>(4) 2020年度からの学舎制スタートに向けて、定期的に校内会議や網野高等学校との連携会議を重ね、準備を進めることができた。</p> <p>2 課題</p> <p>(1) 家庭学習時間が不足している。</p> <p>(2) 規範意識を醸成し、健全な生活態度を育成するための生徒指導体制の確立が必要である。</p> <p>(3) 部活動加入率・ボランティア活動への参加率が低く、自己の可能性を広げる機会が得られていない。</p> <p>(4) 学舎制や学科改編に向けて、教職員の準備組織を再構築し、全員参画の取組を検討する。</p>	<p>1 学習指導の充実</p> <p>(1) 家庭学習習慣を確立させ、希望進路実現につながる学力を身に付けさせる。</p> <p>(2) 探究活動をとおして、協働型課題解決能力・表現力を育成する。</p> <p>2 社会で求められる力の育成</p> <p>(1) 全教職員が共通認識の下で一貫性をもって指導し、規範意識の醸成と健全な生活態度の育成を図る。</p> <p>(2) 部活動・ボランティア活動等への積極的な参加を促し、自己の可能性に挑戦する姿勢を養う。</p> <p>3 学舎制スタートに向けた準備の推進</p> <p>(1) 全教職員が学校づくりに参画し、組織的に準備を進める。</p> <p>(2) 遠隔教育システムを活用し、網野高等学校と連携した取組を実施する。</p> <p>(3) 効果的な広報活動により、本校に対する中学生並びに地域住民の理解を促進し、積極的な生徒募集に努める。</p>

評価は、教職員全体の平均に基づいて、次のように表記しています。

3.5～4.0→A(十分達成できている) 2.5～3.4→B(ほぼ達成できている) 1.5～2.4→C(あまり達成できていない) 1.0～1.4→D(ほとんど達成できていない)

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価		成果と課題
組織運営	学舎制発足に向けての準備	・校内定例班長会議を実施する。【週1回以上】	A	A	毎週1回会議を実施し、準備を進めた。研修会は目標回数を達成し、活発な意見交流が行えた。学舎制検討会議だよりに代えて、月例の職員会議で口頭による進捗状況の報告をした。
		・全員態勢で組織的に準備を進める。 【年間3回以上の研修会の実施・学舎制検討会議だよりを月1回以上発行】	B		
		・網野高校との連携をより強化し、農商連携の取組を進め、遠隔教育システムを用いた授業を研究する。 【農商連携の会議・取組10回以上】	A		
	広報活動の充実	・広報活動を充実させ、保護者、中学生へ教育内容の周知を図り、本校を志望する生徒を前年度よりも増加させる。 【各分掌・教科・部活動で月1回以上ホームページを更新】 【農業クラブ活動や農業科の実習のほぼ全てをホームページに掲載】	B	B	ホームページをリニューアルし、昨年までより多くの教科・分掌・部活動の記事が掲載された。特に、農業クラブ活動や農業科の実習については、ほぼすべてを掲載することができた。
安心・安全・快適な教育環境の整備	・日常的な安全点検の実施により、危険箇所を早期に発見し修繕を行う。 ・校内の整理整頓により、快適な教育環境の整備を図る。 ・光熱水費等の節減により、学校運営費の予算を確保する。 【学校評価アンケートでの教育環境満足度75%以上】	B	B	快適な教育環境の整備のため、教室の冷暖房は、制限することなく実施できた。学校評価アンケート（生徒）では、肯定的評価の割合が73.8%であった。学科改編に向けて、厨房・ランチルームの改修工事に着工した。	
教職員の働き方改革	・行事の精選等により、教職員の多忙感や負担感を減少させる。 【原則午後8時までの退勤80%以上】	C	C	午後8時までの退勤者の割合は前年度よりも高くなっているが、高校再編・学科改編に伴う業務の増加により、多忙感や負担感は減少できていない。	
家庭・地域との連携	P T A活動の活性化	・本部役員・学級委員と連携して各種行事を活性化させるとともに参加者の増加を図る。 【年間来校回数5回以上の保護者50人以上】	B	B	年間来校回数5回以上の保護者は29人であった。学級委員を中心とする熱心な呼びかけがあったが、学校行事、学年行事、学級懇談会への参加者を大幅に増加させることができなかった。
		・本部役員と協力して全国高等学校P T A連合会大会の運営にあたる。	B		全国高等学校P T A連合会大会について、前会長や今年度の本部役員と協力して運営にあたることができた。
	保護者との連携	・迅速な対応と連絡によって保護者との信頼関係を築き、情報交換や生徒理解に努める。	B	B	担任、学年団を中心に保護者との連携ができている。特に進路の方向性を決めるときには迅速に対応できた。
	地域との連携	・「産業社会と人間」を通じて、地域とつながり、学び、考える。	B	A	社会人交流会や探究活動を通して、地域とのつながりを深めることができた。
・地元農家（本校OB）や農林行政機関、J A、大学等との連携を密にし、教育効果を上げるとともに地域に貢献する活動を行う。 【年間15回以上】		A	京都府農林水産部との連携をはじめ、年間30回の事業を実施することができ、成果も上がった。		
・地域の福祉施設・機関と連携した活動を計画・実施する。 【年間5回以上】		A	計9回実施した。対外的な活動での活躍を日々の学習姿勢へつなげることが課題である。		

学習指導	家庭学習習慣の確立と学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科ごとに家庭学習習慣の確立に向けた方策を講じ、その成果を検証して、全教職員で共有する。</li> <li>【定期考査前の家庭学習時間 1 日平均120分以上の生徒の割合 50%以上】</li> </ul>	C	C	定期考査前の家庭学習時間が 1 日120分以上の生徒の割合が増加している一方で、家庭学習習慣が定着していない生徒もいる。効果的な方法等を共有し、学校全体の取組としていく必要がある。
	探究活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」の他、各教科で具体的な探究活動を計画し実施する。また、校内発表会に向けて十分な準備を行う。</li> <li>読書・学習・情報センターとして、学校図書館を積極的に活用する。</li> <li>【校内発表会事後アンケートでの肯定的な評価80%以上】</li> </ul>	B	B	B 校内発表会事後アンケート（生徒）では、肯定的評価の割合が94%であった。校内発表会は、昨年度の反省を生かしてより良いものになったが、一部を除いて探究活動の内容が現在求められている水準に達していない。長期計画を立てた上で、目標を共有して指導に当たる必要がある。
生徒指導	いじめや問題行動の防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の生徒の状況をしっかりと観察し、毎週 1 回アンケート調査を実施して、問題行動の早期発見、早期対応に努める。</li> </ul>	B	B	毎週アンケートを実施し、生徒の状況把握に努めた。いじめや問題行動の早期発見、早期対応により、重大化することを防ぐことができた。
	自立・自律した生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>爽やかな身だしなみ、元気な挨拶、時間厳守、整理整頓の指導に力を入れる。【各学期に身だしなみ改善強化週間実施】</li> </ul>	B	B	B 各学期、重要行事やポイントとなる時期に合わせて身だしなみ改善強化週間を設け、教職員全体で指導に当たった。挨拶については、日頃からの声かけや挨拶の重要性の指導が必要である。 学校全体でベル着を目指したが、完全ではなく、教員のさらなる努力が必要である。また、教室はよく整理されていたが、昇降口ロッカーの上に私物を置いている一部の生徒に何度か指導を行った。
	生徒の主体的な取組の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 年生全員の部活動仮入部を実施するとともに、本入部する生徒の増加に努める。【全校生徒の部活動加入率70%】</li> <li>ボランティア活動への積極的な参加を促す。</li> <li>【参加生徒の満足度80%以上】</li> </ul>	C	B	部活動への加入を促す努力をしたが、通学手段等の関係もあり、部活動加入率は目標を達成できなかった。 のべ378名（ボランティア部の活動除く）の生徒がボランティア活動に参加した。事後アンケートの結果、参加した生徒の満足度は100%であった。

進路指導	希望進路実現に向けての個別指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談の充実により、自己理解の深化と進路意識の高揚を図るとともに、関係教員が連携し適切な指導を行う。</li> <li>【2・3年生との全員面談の実施】【希望進路実現率90%以上】</li> </ul>	B	B	B	3年生就職希望者への四者面談を夏季休業中に実施した。就職希望者、進学希望者ともに全員進路先が決定した。2年生への全員面談は調べ学習が終わった後に実施した。
	キャリア教育を念頭に置いた計画的な進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」「LHR」における計画的・組織的な指導により、キャリア教育の充実を図る。</li> <li>・生産科学系列、福祉系列の生徒の関連分野への就職・進学を支援する。</li> </ul>	B	B		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年とも計画的に分野別説明会などの取組を実施し、キャリア教育の充実を図った。今年度は農業関係の進路を希望する3年生はいなかった。福祉系列の生徒12名のうち、関連分野への就職・進学は5名、看護系への進学は1名であった。</li> </ul>
健康安全指導	健康で安全な生活を営むための実践的能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室から健康情報を発信し、自ら健康管理できる生徒を育成する。【保健だよりの月1回発行】</li> </ul>	A	B	A	受信側の視点に立ち、内容・紙面を工夫しながら情報発信をしていく。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育を推進し、朝食を摂る習慣や食品の成分を考えて食事を選択できる力を身に付けさせる。【食育キャンペーン実施】</li> </ul>	B			食生活の重要性について、引き続き指導していく。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「時を守り、場を清め、礼を正す」を合言葉に、美化・清掃活動の指導を行う。</li> </ul>	B			掃除への参加率だけでなく、いかに丁寧な掃除ができるかを指導していく。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具や機械の正しく安全な使用方法を指導する。</li> </ul>	A			引き続き指導していく。
教育相談・特別支援に関する情報交流並びに、教育相談会議の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の状況について、教員間の情報交換の機会を増やし、スクールカウンセラー及び専門機関と連携した教育相談・特別支援を進める。【教育相談会議の定例開催】</li> </ul>	A	A	特別支援教育はますます求められる状況にある。研修によって、授業での工夫・実践例についての交流をより深める。		
人権教育	人権教育の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体で人権学習に取り組む。</li> <li>・基本的人権を侵害する行為に対し、全教職員が毅然とした態度で指導し、すべての生徒が安心して学校生活を送れるようにする。【教職員研修の実施】</li> </ul>	A	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権侵害が疑われるような場合には、全教職員で情報共有し、組織的に指導にあたった。</li> <li>・セクシュアル・ハラスメントに関する教職員研修、また、障害者差別解消法に示された目的・基本方針等を踏まえ、差別の禁止及び合理的配慮への理解・知識等を深めるための教職員研修を行った。</li> </ul>
	人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「LHR」「総合的な学習の時間」や学校行事などを活用して計画的な指導を行うとともに、日々の学校生活を通じて、他者への思いやりの意識を育む。</li> </ul>	B	B		学校行事などを活用し、他者への思いやりの意識を育む指導を引き続き行っていく。

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校評価アンケート（保護者）の回答に「よくわからない」が多いのは、学校が 変わっていくことへの不安があるのではないか。</li> <li>・ 新学科の内容について十分に理解できていないことが中学生の保護者の不安材料になっているのではないか。今までの久美浜高校のイメージを変え、こんなことができるというイメージを発信することが大切である。</li> <li>・ 今年の1年生が2年次、3年次と頑張っていくことが次の学科につながっていく。</li> <li>・ 保護者は学校に対して「こんな子どもにしてほしい」と期待しており、入学したときに、子どもに「何をしたいのか」ということを考えさせることが大切である。</li> <li>・ 一つのことを究めること、例えば農業をしっかりと学ぶことは、次のステップでも生きてくるので、しっかりと学ばせてほしい。今後はより専門的な学習が行われると期待している。</li> <li>・ 会社で人を採用するとき、学力だけがすべてではない。人間性豊かな生徒を育ててほしい。型にはめるのではなく、その人その人に合った形で伸ばし、この良い地域で良い生徒を育ててほしい。</li> <li>・ 生徒が自分の可能性に挑戦し、自己を表現する機会を今後も設定してほしい。引き続き、小学生、中学生の目標となるとともに、社会人となる自覚をもち、役に立ち、感謝される経験を重ねてほしい。</li> </ul>
<p>次年度に向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報活動を工夫し、中学生とその保護者、地域住民の本校に対する理解を深める。</li> <li>・ 働き方改革につながる取組を積極的に実施し、教職員の多忙感や負担感を減少させる。</li> <li>・ 家庭学習習慣の定着に効果のあった方法を校内で共有し、教員が学び合いながら学校全体で学力向上に取り組む。</li> <li>・ 探究活動について、長期計画を立てた上で、目標を共有しながら指導に当たり、内容をさらに充実させる。</li> <li>・ 授業や学校行事をとおして生徒の自己有用感を高め、何事にもベストを尽くす生徒を育てる。</li> <li>・ 希望進路実現のために関係教員が連携して組織的に取り組む。</li> </ul>